

## 東京市電爭議に對する我等の態度

今回の東京市電爭議を靜觀するに、市電當局が長日月の赤字財政の責任を、窮余の策として恰も道義と常識を没却せるかの如き態度を以て従業員側に犠牲を強いて切抜けんとしたるはまことに遺憾千萬と云はねばならぬ。

然るに東京市電の諸事業の破滅たるや決して一朝一夕の事と云ふ事が出来ない。即ち遠因は實に東京市政多年の亂脈・積弊に基くものであつて、その財政の破綻・人事行政の不適正が次第に市電諸事業の經營を困難に陥らしめ、これと相呼應して従業員側の過激嬌傲なる階級鬭争の實踐が遂に今日の救ふべからざる混乱を招くに至つたものと斷ぜざるを得ない。

従つて今日の爭議を目して單純なる勞資間の經濟鬭争と見做し、その認識の上に立つて解決の道を求めんとするも到底公正なる解決案は得難い。即ち東京市電に於ける勞資相競の根幹を突いてこれを改善しその事業を更生せしめんとするには、斷じて勞働條件に關する姑息なる一時的妥協を以て足れりとする事が出来ない。

我等をして云はしむれば先づ市理事者と従業員双方の眞劍なる覺醒に待ち、いづれも眞に市電恒久の對策を樹立し敢行せんとするの至誠を披瀝し、これを社會正義に訴ふるところに出發しなければならぬ。

この意味よりすれば市電當局は虚心坦懷に一旦今回の案を留保し同時に従業員側が今回、眞に己むを得ずして蹶起したる衷情は察するもこれ亦敢然として即時就業の襟度を見せ、然る後廣く内務・大藏・鐵道の關係各省並に莫大なる市債所有者たる金融財界の各代表者及び産業と勞働の問題に學識經驗ある權威者を網羅し、これに市理事者と従業員代表を加へたる一大會議を提案開催しその會議によつて市債の整理・市政の刷新・市電事業の更生・従業員の産業觀念の向上等一切に亘る根本問題を熟議解決し以て眞の更生を劃するに非ずんば殆んど解決の道無しと云はざるを得ない。

我等は東京市電の問題を東京市民に取つての重大關心事はかりでなく我國現前の産業と勞働の問題に關し極めて樞要なる意義を帯びたるものとして黙視するに忍びず敢て我等の態度を表明するものである。

昭和九年九月八日

東京市京橋區新佃西町二ノ七

日本産業勞働俱樂部